

過去に海田町で発生した自然災害

海田町では、明治、昭和、平成にかけて何度も大きな地震に見舞われています。風水害においても、過去の台風で土砂災害や大規模な水害が発生し、町内に被害をもたらしました。

過去の災害の状況(明治40年7月15日・三迫付近)



風水害に備える!

大雨が発生する前にチェック

台風や大雨のとき、気象情報で発表される雨量や、身近で起こる現象を確認し、早めの行動をとりましょう。

雨の強さと降り方

雨の強さ		屋外の様子	住民に求められる行動
10 ～ 20mm/ 時間	やや強い雨	地面一面が水たまりのようになる。	気象情報を確認し、避難準備を行う。
20 ～ 30mm/ 時間	強い雨	道路が川のようにになる。	
30 ～ 50mm/ 時間	激しい雨		避難がだんだん難しくなる。 浸水が始まる前に避難する。
50 ～ 80mm/ 時間	非常に激しい雨	雨で視界が悪くなり、車の運転は危険となる。	浸水の危険があり屋外避難は危険。 屋内の2階以上に避難する。
80mm/ 時間 以上	猛烈な雨		

平成30年7月豪雨時に海田町で観測された1時間降水量のうち最大は69mmでした。30mmを超えると屋外の移動が難しいから注意!



こんな現象に注意

- ・がけからの水が濁る
- ・がけに亀裂が入る
- ・小石がバラバラ落ちてくる
- ・地面にひび割れができる
- ・斜面から水が噴き出す
- ・山鳴りや、石のぶつかりあう音が聞こえる
- ・雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- ・川の水が急に濁ったり流木が混ざりはじめる
- ・沢や井戸の水が濁る
- ・異様な土のにおいがする

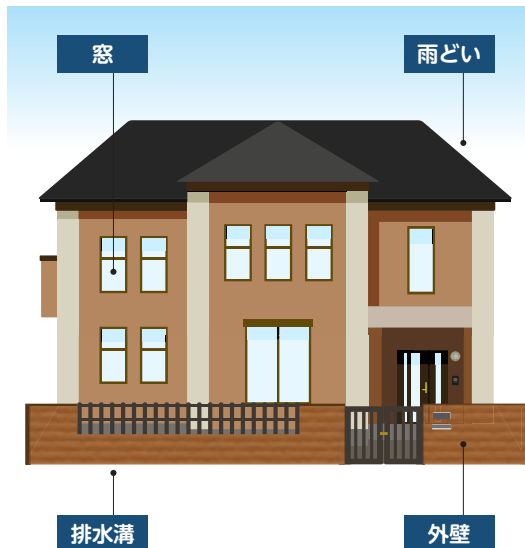


土砂災害が発生する前には前兆現象が起こる場合があるから、前兆現象に気づいたら、斜面や川のそばから直角に離れる、屋外に避難できない場合は、家の2階以上に上がり斜面と反対側に移動するなど山から離れよう!



土砂災害の前触れ

台風がやってくる前に、家の周りの安全チェック



ブロック塀

◎ひび割れなど破損箇所はないか。

屋根

◎ズレ・はがれなど破損箇所はないか。

ベランダ

◎落下や飛散しそうなものはないか。

その他

◎周囲に飛散しそうなもの、倒れそうなものはないか。

高潮が発生する前にチェック

台風の際に潮位が上昇し高潮が発生するおそれがあります。
町が作成しているハザードマップを確認し、高潮に備えましょう。

海田町 高潮ハザードマップ

検索



湾奥部に注意

◎湾奥部では海水が湾外へ逃げにくく、湾内の水位があがり、被害が起こる可能性が高い。

河口部に注意

◎高潮と洪水の両方の危険が重なるおそれがある。

沿岸部の干拓地、埋立地に注意

◎干拓地や埋立地では、台風などの際には高潮などの危険があるとともに、地震時には液状化が起こりやすい場合がある。

P18、19の情報の収集先を確認して、早めに情報を入手する習慣をつけ、自分自身や家族を守ろう！



大雨が降ったら、ここに注意!

前兆現象や気象情報に注意し、早めの避難を心掛けることが重要です。避難所へ避難する立ち退き避難が基本ですが、降雨の状況によっては、外出が危険な場合も考えられます。



早めの避難が重要!
声をかけ合い、助け合い
ながら避難しよう!

避難所への経路だけでなく、自宅近くの安全な高台や高い建物など、日頃から安全な場所を探しておくようにしましょう!



急な増水に注意

- ◎大雨・洪水注意報(警報)が発令されたとき、急な大雨などのとき、集中豪雨の可能性がある。
- ◎すぐに川など水辺の近くから離れる。

冠水に注意

- ◎ひざ上(50cm)以上の冠水、水の流れが速ければ20cm程度で歩行が困難となる。
- ◎車での避難は、少しの冠水でも閉じ込めの可能性もあり危険となる。

山地の盛土造成地にも注意

- ◎斜面が崩れたり土砂が流出する被害が発生することがある。

河川・水路に注意

- ◎河川や水路の位置が不明の場合、外出は危険となる。

地下施設の浸水に注意

- ◎地下駐車場やアンダーパスは、水没するおそれがある。

竜巻が発生したら、ここに注意!

屋内にいるとき

窓の少ない部屋に移動、雨戸・カーテンを閉め、頑丈なテーブル等の下に入る。

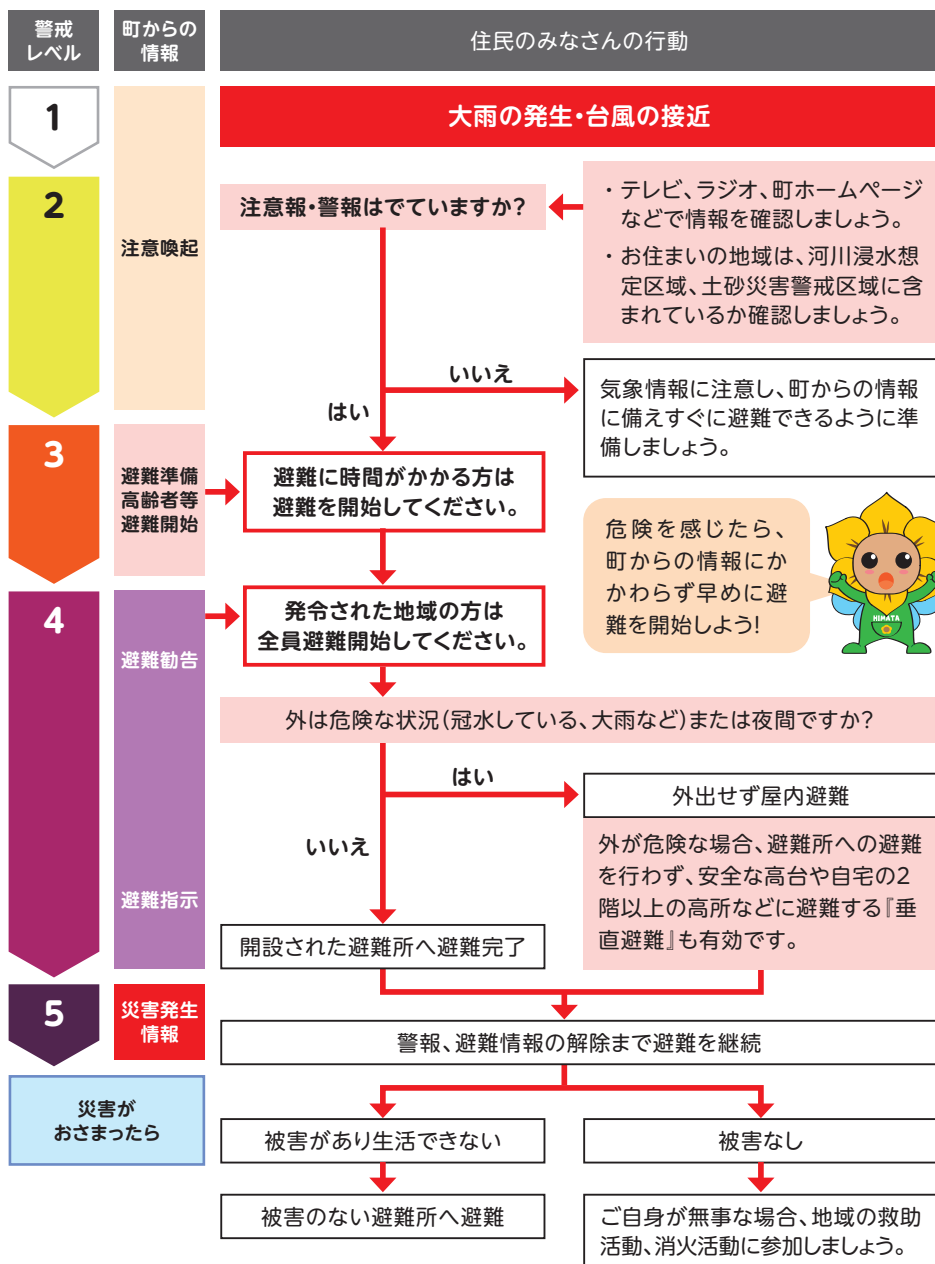
屋外にいるとき

すぐに頑丈な建物に入るか、建物の陰に入り身を小さくする。



確認しよう 避難時の行動(風水害)

町からの情報に、どのような行動をとる必要があるか確認してみましょう。
災害が発生したら、周囲の状況などをよく確認して行動しましょう。



危険を感じたら、町からの情報にかかわらず早めに避難を開始しよう！